整理番号　16-44

平成２８年度　プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 29 年 5 月 4 日
代表者　山下　倫実

研究課題名	妊娠・産褥期の夫婦関係からみた母親の精神的危機の要因解明と支援モデルの構築
研究期間	平成２８年４月１日～平成２９年３月３１日
共同研究者	加藤 陽子　・石田 有理

１．今年度の研究概要

本研究は、妊産期の女性の精神的危機に影響を及ぼす要因について、夫婦（カップル）という新しい視点を組み込むことで、新たな要因の解明および支援方法の構築を目指すものである。

妊娠を境とした女性側の急激な心身の変化は、夫の不貞行為、夫婦のコミュニケーション不足、互いに期待していた親役割の不一致等、様々な問題を浮き彫りにし、夫婦関係に危機を生じさせることが予測される。また，乳幼児の急速な心身の発達が母親のストレスや夫婦の関係性評価に影響を与えることも考えられる。そこで本研究では、妊娠・産褥期という関係性の変化が著しい時期の夫婦関係という新しい要因に着目し、子どもを得た夫婦が互いにどのようなアイデンティティを形成していくのか、またその過程で母親にどのような精神的危機が生じ、それにどのように対応していくのかについて縦断的に検討を行なうことを目的とした。

今年度は、前年度に実施した 3 歳未満の子どもを持つ母親を対象とする WEB 調査の分析を行ない、得られた結果を本学の紀要に投稿した。また、本研究は最終的に新たな母親支援の構築を目指すものであるため、実際に母親の心身の健康を支援する活動を行なっているマドレボニータの吉田紫磨子先生をお招きし、現在子育て中の夫婦、子育て支援に関心のある学生たちを対象とした講演会を実施した。この講演会では、出産後の女性の体や夫婦関係の変化について子育て中の母親や父親、学生たちが共に学ぶ機会を提供した。最後に、H28 年度の調査結果をふまえ、母親と父親の育児ストレスと親アイデンティティの関連の差異を明らかにするため、①夫婦関係評価、②夫婦関係の特徴、③父親（もしくは母親）として期待すること、④親アイデンティティについて尋ねる横断的 WEB 調査を、１歳未満のお子様を持つ男性と女性（子どもの数が１名のみ、成人に限定）を対象に実施した。

２．研究の成果

前年度に実施した WEB 調査の分析を行ない、3 歳未満の幼い子どもをもつ母親が親としてのアイデンティティを獲得していく過程で、育児ストレスと父親の育児行動がどのように関与するのかを検討した。その結果、①母親の感じる育児ストレスは母親アイデンティティの獲得にネガティブに関与する、②父親が子どもや母親に対して育児行動を頻繁に行なう場合、母親の育児不安が低くなるほど母親は親としての効力感を高める、③父親が母親への支援を行なう場合、父親の支援のなさによるストレスを感じるほど母親の親としての効力感は高まることが示唆された。これらの結果については紀要論文として投稿した（添付資料）。

次に、母親の心身の健康を支援する活動を行なっているマドレボニータの吉田紫磨子先生をお招きした講演会では、出産前に思い描く自己像、子どもと母親との関係、夫婦関係などが出産後の実状といかにかけ離れているかをご説明いただいた。また、「どんな産後からの人生にしたい？」というブレインストーミングを用いたワークを行ない、夫婦や母親同士、学生同士で様々な産後の生活への希望について意見交換を行なった。講演後は来校された子育て中の方々と学生が触れ合う場面が見受けられ、赤ちゃんを抱かせてもらう学生もいた。来校された方からは、夫婦関係の問題に

ついてもっと聞きたい、赤ちゃんを預かってもらって夫婦でこのような講演会に参加できてよかった等のご意見をいただき、満足度の高い講演会となった。昨年度から継続しているこのようなイベントの実施を通して、社会という場で共に生きる、異なる世代の女性同士が学び合う場を提供することで、結果的に相互支援につながっていくのではないかという手ごたえを感じている（講演会資料、アンケート結果添付）。

本来はイベントの実施や Facebook の告知を通して、出産して間もない夫婦のペアデータを収集し、親アイデンティティの醸成について検討する予定であったが、調査協力者を募ることが困難であった。そのため、前年度のデータで得られた結果も踏まえ、幼い子どもをもつ夫婦が親としてのアイデンティティを獲得していく過程で、育児ストレスや配偶者の育児行動が及ぼす影響に性差が存在するのかを検討することとした。データの収集をクロスマーケティング社に依頼することにより、前年度の調査では統制することができなかった「出産後 1 年未満で 1 人しか子どものいない父親・母親」を調査対象者とすることができた。今後、このデータを分析することによって、最も親としてのアイデンティティが変化する時期の心理的変化を捉え、母親だけでなく父親の心理的変化も検討することができると考える（調査項目添付）。

３．研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

2017 年 3 月　十文字学園女子大学紀要に論文を掲載
（育児ストレスが母親アイデンティティに及ぼす影響に関する予備的検討 - 父親の育児行動に対する評価に着目して - ）
2017 年 9 月 21 日～23 日　第 81 回日本心理学会にて学会発表
2017 年 10 月 28 日～29 日　第 58 回日本社会心理学会にて学会発表

平成 29 年　 11 月　 27 日

平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	プロジェクト研究　個人課題
研究課題名	妊娠・産褥期の夫婦関係からみた母親の精神的危機の要因解明と支援モデルの構築
研究代表者	山下倫実
研究期間	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成　29 年　3 月 31 日
共同研究者	加藤陽子　・石田有理

1.研究成果取組状況

(1)国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済	1. 石田有理・山下倫実・加藤陽子(2017)親アイデンティティを規定する要因に関する探索的検討(1)－父親の育児行動に対する母親の評価及び育児ストレスと母親アイデンティティとの関連－　日本心理学会第 81 回大会(2017/9/20@久留米大学) 2. 山下倫実・石田有理・加藤陽子(2017)親アイデンティティを規定する要因に関する探索的検討(2)－父親自身の育児行動及び育児ストレスと父親アイデンティティとの関連－　日本心理学会第 81 回大会(2017/9/20@久留米大学) 3. 山下倫実・石田有理・加藤陽子(2017)父親の育児ストレスと育児行動が父親アイデンティティに及ぼす影響　日本社会心理学会第 58 回大会発表論文集, p302.(2017/10/29@広島大学)	
発表予定		

(2)雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者，発表課題，学会誌名，発表年月日，発表場所	査読有無
投稿済	山下倫実・加藤陽子・石田有理(2016)育児ストレスが母親アイデンティティに及ぼす影響に関する予備的検討－父親の育児行動に対する評価に着目して－　十文字学園女子大学紀要，第 47 集，p25-36.	
投稿中 投稿予定		

(3)図書等の出版

状況	発表者，発表課題，学会誌名，発表年月日，発表場所
出版済	
出版予定	

(4)シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等，講演(発表タイトル)，実施年月日，実施場所
開催済	
開催予定	

(5)本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名，事業名，課題名